

最終日

2022.3.31

本日は、3月31日である。特別な日である。年度の最終日である。暦年で言えば、大晦日にあたるが、そんな感慨はない。明日、4月1日から、また新たなメンバーが加わって、新しい年度がスタートする。それが学校である。

こうしてみると、もう少し感慨に浸る時間がほしいように思う。年度末に、せめて3日間がいいから、仕事に行かなくてよい期間があるとどうだろう。気分的にだいぶ違うように思うのだが。

それはさておき、野田中学校に勤務するようになり、ちょうど1年となる。先生方は、朝早くから夜まで、よく働いている。頭が下がる思いである。自分も昔はそうだったのだが、今は加速度的に物事が動いているように感じる。せわしさが違うように思う。

この1年でわかったことがある。校務支援システムに代表される事務の効率化を図るものと旧態依然としたものが混在しているということである。否応なく導入されたものと、自分たちで変えなければ変わらないものが同居しているのである。さらには、変わった部分と変わらない部分との整合性がないことも判明した。もう少し、システムを変え、整合性を図れば、少しは先生方のせわしさを解消できるのではと考えた。変わらないままできた旧態依然とした部分や整合性がとれていない部分にメスを入れるのである。

これができるのが、1年目のメンバーの特権である。今、やらなければ、またやらないまま、変わらないままでいってしまう。先生方のエネルギーが拡散しないように、ポイントを絞って重点的に力を注ぎたいのである。

今日は、3日間は無理だが、3時間ほどは“無”を求めたい。無になりたい。現実的には難しいことはわかっている。つつい先のことを考えてしまう。次から次へとアイデアが浮かんでしまう。そもそも、この校長室だよりの文面が湧き出てしまう。悲しい教員の性である。

では、どうするか。この1年でお世話になった方々に感謝する時間をつくろうか。そういえば、教頭になる前日の3月31日は、そうすることができていた。やってみる価値はある。その結果、何が見えてくるか、楽しみでもある。

昔、お世話になった校長先生がご退職される3月31日があった。その日の夜に、その校長先生を囲む会が開かれた。集まったのは10人ほどだった。それが校長先生の希望だった。大人数で盛大にではなく、ごく少人数でしみじみと味わうようにということだろう。私も呼んでいただいた。光栄であり、うれしかった。

最終日である3月31日は、特別な日である。先生方は何を思うのだろうか。十人の先生がいれば、十とおりの3月31日がある。